

# 1. 調査報告概要表

作成日 2007年3月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670104563
法人名	医療法人 春風会
事業所名	はるかぜ黎明
所在地 (電話番号)	鹿児島市照国町3番18号 (電話)099-227-1180
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年3月24日

## 【情報提供票より】(19年3月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成17年8月30日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人	常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	7.2 人

### (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋造り	
	2 階建て	1 階 ~ 2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4)利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.5 歳	最低 77 歳	最高 95 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院 西歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市の中心地に位置しつつ、緑が多い閑静な佇まいの中に建っているホームである。入居者は以前からホーム周辺に生活していた人が多く、近隣住民と顔なじみの関係ができており、入居前の生活をできるだけ維持できるような支援が行われている。また、管理者も地域住民との人脈を活かし、地域の一員として自然な形で生活できるよう常に配慮している。母体法人の医療機関が複数のグループホームを運営していることから、他のホームとの連携・協力体制ができており、ホーム独自の勉強会のほか、法人単位とした研修、他のホームと協働して行われる勉強会等が度々行われており、職員の育成に力を入れている。職員は入居者と一緒になって、外出やレクリエーションに楽しみながら取り組んでおり、利用者・職員の話し声や歌声、笑い声があふれるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では要改善点の指摘がなかったため、現状の維持に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全ての職員で自らが行っているケアを振り返る機会と受け止め、折をみて職員間で話し合いながら作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の代表や入居者の家族などに声をかけ、ホームの現状を伝え、それぞれの立場から意見をもらっている。運営推進会議をサービス向上の1つの手がかりとして位置づけ、今後も開催形式や検討課題等について様々な検討がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	頻繁に家族の訪問があるために、その機会を利用して、意見や相談を話せるように普段から職員と家族との関係作りには細心の注意を払っている。意見箱を設けたり、ホームを介さずに相談できる第三者委員を設けるなどの取組みも行われている。現在は苦情等の申し立てがないために対応実績はない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会・あいご会・おたっしやクラブなど、地域の組織との交流、ご近所づきあいなどが盛んに行われており、地域の一員として地域になじんで暮らしている様子がうかがえる。ホーム側からも地域の清掃活動や行事に積極的に参加している。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に「自分が認知症になったらどのような支援を受けたいか」「どんなグループホームで過ごしたいか」について職員で意見を出しあい、それを分かりやすく文章化して理念にしている。地域の中で暮らし続けていくことを支える視点も盛り込まれている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の朝礼で唱和することによって、毎日の仕事の始まりに理念を共有化し、それに基づいたケアができるよう取り組んでいる。また、具体的事例について、職員で理念に立ち返って検討することも多々ある。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会・あいご会・おたっしゃクラブなど、地域の組織との交流、近所づきあいなどが盛んに行われており、地域の一員として地域に馴染んで暮らしている様子がうかがえる。ホーム側からも清掃活動や行事に積極的に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全ての職員で自らがやっているケアを振り返る機会と受け止め、折をみて職員間で話し合いながら作成している。外部評価結果後は現状を踏まえて改善点を検討し、必要に応じて改善に向けて取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表や入居者の家族などに声をかけ、ホームの現状を伝え、それぞれの立場から意見をもらっている。運営推進会議をサービス向上の1つの手がかりとして位置づけており、今後の開催形式や議題等について様々な検討がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体法人におかれているグループホームの管理を統括する担当者が必要に応じて市町村担当者と連絡をとっているが、運営推進会議への行政担当者の出席は今のところなされておらず、ホームとして市町村担当者と連携をとる体制もできていない。	○	今後も運営推進会議への出席について声かけを続けてほしい。また、法人と市町村担当者のやりとりだけでなく、ホームとしても、担当者にホームを訪問してもらい機会を作ったり、担当者と直接連携がとれる体制について検討してほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や手紙を利用して最近の様子を知らせている。出納状況についても、同様に報告している。また、新聞や行事予定を作成して配布し、ホーム全体の様子や職員の異動状況等について家族に知ってもらう機会を設けている。	○	金銭の出納状況について、訪問時を利用して説明しているとのことであるが、今後の取組みとして、定期的に訪問ができない家族や定期的に書面で報告を受けたい家族に対してどのように対応するのか、その方法や仕組みについて検討してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頻繁に家族の訪問があるために、その機会を利用して、意見や相談を話せるように普段から職員と家族との関係作りには細心の注意を払っている。意見箱を設けたり、ホームを介さずに相談できる第三者委員を設けるなどの取組みも行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの関係による支援をできるだけ継続するために、必要最低限の異動以外はなるべく行わないように配慮している。また、職員の異動は法人の都合ではなく、ホームが必要な人材を確保するという視点で行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者はそれぞれの職員のスキルに応じて、必要な研修を案内し、受講を促している。外部研修のほか、法人全体の研修、ホームのミーティングを利用した勉強会などにも取り組んでいる。研修後も出席できなかった職員への内容伝達も行われている。	○	職員はそれぞれ研修に参加する機会はあるものの、受講回数や受講内容については十分とはいえない。ホームとして長期的な視点で「職員にどのように成長してほしいか」等の具体像を想定し、研修計画をたてた上で現場での実践を積み重ねながら育成できるよう取り組んでほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の管理者や計画作成担当者は定期的に会議を行っており、同業者との交流が行われている。職員は法人内の他グループホームの見学に行ったり、法人内研修等で会う機会がある。	○	職員は個人的な関係で同業者と交流する機会がそれぞれあるとのことであるが、法人外の他のグループホームとのネットワーク作りや勉強会の開催など、サービスの質の向上にむけてより組織的な取組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込をしてから実際にサービスを利用するまでの間、利用者本人はもちろんのこと、家族にも何度も足を運んでもらい、本人及び家族が十分にホームの雰囲気に慣れてもらえるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔のできごとや料理の仕方、利用者の得意な分野については、職員が利用者から学ぶ場面が多々ある。また、レクリエーション等についても、職員も一緒になって生き生きと取組み、共にホームでの生活を楽しくしている様子がうかがわれる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が職員に何でも話したり、希望を伝えたりできるような関係作りに配慮している。自ら意見を言うことが難しい利用者でも、その都度声かけをし、家族からの意見も参考にしながら思いや意向を尊重できるような支援に心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議には、職員だけでなく本人や家族にもできる限り参加してもらい、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。会議の際は意見を言いやすいような会議の雰囲気作りにも配慮し、利用者本位の計画に結びつけられるよう取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね6ヶ月に1回は定期的な計画の見直しが行われている。何らかの状況変化があった場合は、早急に家族や関係者と話しあい、現状に即した計画の作成に努めている。	○	小規模できめ細かいケアが特徴である地域密着型サービスの役割を考えると、本人等から新たな要望や状況変化がない場合でも月に1回程度は新鮮な目で計画を見直す機会を設けることを仕組みとして整備することを検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の支援、日常的な買物の必要性への対応、理美容院への送迎、外出の支援など、本人や家族の状況から発生するニーズについては柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を確認し、希望する医療機関で継続して受診できるように支援している。また、様々な医療的ニーズが発生したときのために、協力医療機関だけでなく、複数の医療機関と連携をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する指針を家族に説明し、家族の意向も把握している。現在、終末期に対応した例はないが、関連する課題に対する話し合いは常々行われており、現状や方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は「自分の家族だと思って接すること」をモットーにしており、それぞれの利用者との関係性に配慮して声かけや対応を行っている。誇りやプライバシーについても気を配っていることが確認できる。個人情報の取り扱いについても個人ファイル等は事務所で一括して保管し、適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度規則正しい生活に配慮しつつ、職員の都合や業務時間を優先することなく、それぞれのペースやその日の過ごし方の希望等を大切にした支援に心がけている。原則として1日の流れは決まっているが、食事や入浴時間等はある程度幅を持たせて行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みを確認しながらメニューをたてて、利用者と一緒に食事の準備を行っている。同じテーブルで同じものを食べ、大切なコミュニケーションの一時になっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニットごとに入浴日が決まっているが、毎日の入浴希望に対応するために、それぞれのユニットを行き来できるような体制になっている。入浴の時間帯も一応の決まりはあるが、特に制限せず、希望にあわせて対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や掃除、洗濯、片付け、レクリエーションなど、1日の流れに応じて利用者がそれぞれの役割をもって生活している。また、これまでの生活歴を活かした特技や趣味を継続して行えるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間を通じて、季節に応じた行事を計画して取り組んでいる。また、日常的な散歩や買物なども行われており、ホームに閉じこもることなく、戸外で過ごす時間を作るよう様々な取組みが行われている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出を強く希望する傾向がある利用者には常に見守りに対応し、鍵をかけない自由で開放的なホームを目指している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	火災については、消防署立会いのもと、年に2回避難訓練を行っている。地震や災害に関してもマニュアルを作成して法人全体として取組む体制ができているが、ホームとしての取組み状況が十分とは言いがたい。	○	火災だけでなく、他の災害の対策・取組み状況について確認し、必要な物品の準備、それらの定期的な点検を実践していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食状況は記録に残し、だいたいの摂取量を把握している。水分量についても、必要な水分をとることができるよう配慮している。	○	利用者の意向を尊重したメニュー作りは今後も継続することが大切だと思われるものの、定期的に栄養の専門的な観点からメニューを確認し、アドバイスをもらう取組みを検討してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はいずれも開放的で、清潔感があり、音や光の状況も適切である。利用者が描いた絵や地域のボランティアの方の写真、季節感のある掲示物等で装飾がなされており、あたたかみのある雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で使っていた家具やお気に入りの装飾品、家族の写真などを持ち込み、居心地よさそうな居室作りができています。		